

## 世界臨床検査通信シリーズ-31 臨床検査に関する団体の活動

### アジア臨床病理・臨床検査医学会議 ASCPaLM

アジア臨床病理・臨床検査医学会議 理事長  
東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学 教授 宮地勇人

アジア臨床病理・臨床検査医学会議 (Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine: ASCPaLM) は、臨床検査学 (臨床病理学) を主たる活動とする地域社会のための非営利組織である。その設置の目的は以下のごとくである。1) 臨床検査学 (臨床病理学) における開発と実践の向上を通して社会の健康と福祉に貢献する、2) 教育、研究と実践における対話協力を通して、アジアの構成社会のみならず他のメンバーを支援する。具体的な活動は、2年毎の学術集会、毎年の理事会開催、学術・技術交流促進などを行なっている。日本臨床検査医学会では、アジア交流基金を設けて、アジア各国で開催される ASCPaLM 学術集会を経済的・学術的に支援してきた。

その歴史は、「日韓臨床病理学会議」に由来する。1975年韓国ソウル市で第1回の会議が行われ、以後2年毎に日本、韓国で交互に開催された。その後、台湾をはじめとするアジア諸国の参加・入会があり、1990年第9回の会議に際して発展的に改組して「アジア臨床病理学会議」となった。第1回「アジア臨床病理学会議」は札幌市で佐々木禎一、黒川一郎の両会長のもと開催された。以後、学術集会が2年毎に開催されてきた。2004年第8回会議において、現在の「アジア臨床病理・臨床検査医学会議 ASCPaLM」と改称された。日本では、第9回(2006年)が神戸市で熊谷俊一会長(神戸大学)、第12回(2012年)が京都市で高橋伯夫会長(関西医科大学)のもと開催された。

直近では、第15回学術集会が2018年9月6日～8日にモンゴル国ウランバートル市で開催された。今後、第16回(2020年)はインドネシア、第17回(2022年)は日本で開催の予定である。

2017年には、臨床病理・臨床検査医学分野での教育、標準化、学術発表など相互交流の促進を目的とした覚書について、理事国5カ国(日本、韓国、台湾、インドネシア、モンゴル)の臨床病理・臨床検査医学会理事長にて署名がなされた。現在、理事国メンバーの拡大に向けてアジア各国と調整が行われている。

アジアは経済的な発展が著しい地域である。それにともない、各国での臨床検査医の活躍の場が広がっている。それを反映して、学術集会の参加者数も増加している。アジア諸国との連携は日本の検査業界にとって大きな意味を持つ。日本では少子高齢化で生産人口減少が進み、医療産業は残された成長産業として国際競争力向上が期待されている。日本の検査診断企業の多くが、海外特にアジアでの市場拡大を目指している。2018年9月、小生は ASCPaLM 理事会にて新理事長に推挙され承認された。理事長就任を契機として、臨床検査関係の国内学会の国際化を働きかけている。2019年10月の第51回日本臨床検査自動化学会大会(大会長 宮地勇人)の開催では、企業の海外(アジア)展開を支援するため、日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会(Japanese Association of Clinical Laboratory Systems: JACLaS)と連携し、企業連合による機器試薬セミナーのアジアセッション企画や総合展示会 JACLaS EXPO のアジア諸国ユーザーを対象とした国際化を計画中である。

